

## 母親たちのリ・チャレンジ支援事業【ペルル】

特定非営利活動法人 さんぴいす

### 1. 団体概要

さんぴいすは、新たな「遊びと学びの場」の創設を目的とし、「学校」「地域（コミュニティ）」「家庭」といった子どもの健全育成に深く関与する既存環境の活性化を行うとともに、子どもを見守り育てる立場にある市民及び市民活動団体の自立・成長に対しても様々な支援活動を行い、誰もが生き甲斐を持って暮らせる明るく活気にあふれた健全な市民社会の実現に寄与する事を目的に設立し活動を行っている。設立は平成16年9月 芦屋市に拠点を置き活動している。主な活動内容は下記のとおり。

- ・子育て支援のためのインキュベーションセンターぷらっとの運営（一時保育・カルチャースクール・事務局代行・ITサポートなどを実施）
- ・子育て支援情報誌「ちょこっと」の発行 隔月 3,000部発行
- ・子育て情報と地域の防犯情報の携帯電話への発信事業 など

### 2. 助成事業の概要

ペルルは、妊娠・出産・育児中の女性が社会・地域と関わり続けるために、在宅ワークの提案と場づくりを行う事業である。単に在宅ワーカーを作り出すということではなく、あくまでも「母親たちのキャリア形成支援」という再チャレンジ支援であり、在宅ワークを通して、多くの母親たちが持つ“さびつく”ことへの不安を解消し、社会復帰したい／社会とつながりたいという思いに応え、社会人として通用する人材として育成し、さらに活躍できる場をつくりだすことを目的としている。

### 3. 助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

1年次は登録という大きな一歩を踏み出した母親たちに対して、次のステップとして（在宅）ワークの体験機会を提供。2年次は、さらにその次のステップとして、ワークを意識的にこなすことで社会からの評価を受けようになり、講座や交流の場も活用することでスキルや自信をつけ、最終的に社会で通用する自分（自立した女性）へと大きくジャンプアップすることを目指した。

このために必要なこととして次の2点に注力して事業をすすめた。

- ①在宅ワークの安定供給
- ②登録者たちの意識の変革を促す

#### ①在宅ワークの安定供給

「ペルル」とほかの職業斡旋企業との大きな違いは、在宅ワークを行うことで、母親のキャリア観の形成をはかることができることである。そのためには登録スタッフに在宅ワークを経験させることは必要不可欠なので、「スポンサー企業」の開拓や登録者へ面談を行い多様なワークの掘り起こしを行った。その結果3月末までに企業・店舗約70社からのお仕事依頼を頂くことができ、その経験により多くのスタッフが育ちつつあると実感している。

#### ②登録者たちの意識の変革を促す

2年次は、イベントでの講演やロールモデル提示、交流会開催による情報交換などの効果から意識の変革を狙ったが、急な意識の変革は難しく、今後も地道にはたらきかけることが必要であると感じている。ワークに直結する無料講座（お仕事塾）も開催。



←交流会：2008年8月26日

in 芦屋市内セミナールーム 参加者5名

交流会：2008年10月28日「子どもと一緒に食を考える」  
in 芦屋市内セミナールーム 参加者5名



2008年12月13日

「子育てしながらキャリアアップ！フォーラム」

in HDC 神戸会議室 登録メンバーよりプロジェクト運営  
委員を募っての実施



- ・キャリアカウンセラーによる講演
- ・コーチングワークショップ
- ・ロールモデル（女性の生き方モデル）展示 など

<講座>

お仕事塾 <チラシ作成コース・ショップカード作成コース>



子どもと一緒に参加できるようにし、受講へのハードルを低くし、実用的な内容が好評であった。

#### 4. 助成金の活用状況（使途）

- ・事業の周知のための広報宣伝費（Web ページ・パンフレット・チラシ制作など）
- ・フォーラムやイベント開催のための費用
- ・イベント、講座などの会場代

#### 5. 今後の事業計画

今後は、引き続きワークの提供というペルルのコア事業は継続しつつ、登録しているメンバー自身が活動したり行動を起こすことでペルルを活性化する方策を見つけていきたい。

団体名：特定非営利活動法人さんぴいす  
代表者：河口 紅  
所在地：〒659-0066. 兵庫県芦屋市大榎町7-2-301  
連絡先：TEL&FAX 0797-22-8896 E-mail: [info@peruru-net.com](mailto:info@peruru-net.com)  
URL: <http://peruru-net.com>

## 日本語を核とした新しい形の「国際交流サロン」事業

特定非営利活動法人 実用日本語教育推進協会

### 1. 団体概要

設立年月日：2005年1月21日

「NPO法人実用日本語教育推進協会」は、これまで長年に亘って日本語教師の仕事に携わってきた自分達こそが、今、日本社会の中で必要とされている外国人への日本語教育を積極的に普及しなければならないという使命感を持って設立したNPO法人である。当協会では、既成のプロが使っているテキストをボランティアの人たちが使いこなすのは無理があると考え、教案などがなくても一般の人々にも教えやすい独自の会話テキストと指導書を作成し、日本語教育の現場にいる教師達が実際に外国人に日本語を教えるためのノウハウを伝えることを目的としている。そして、一般の人々が、より気軽に、よりうまく日本語が教えられるようになり、ひいては日本語を通じた国際貢献に役立つことを目指して活動している。

### 2. 助成事業の概要



「にほんご交流サロン」は2008年10月13日にオープニングパーティーを実施し、10月20日からは月3回のペースで月曜日の10時～13時に開催している。このサロンでは①プロ講師が複数の外国人相手に行うグループレッスン ②外国人・日本人が交流するティータイム ③ボランティアが外国人相手に行うマンツーマンレッスンが毎回行われている。

①グループレッスンでは、プロ講師が実際に参加外国人全員とレッスンを行い、その様子を日本人が見学するという形をとっている。②その後のティータイムでは、参加者全員でお茶を飲みながら、歓談、質疑応答などを行い、日本人と外国人、外国人同士、日本人同士の交流が行われている。③マンツーマンレッスンでは、ボランティア日本人が外国人に対し、THANK'sのテキストと指導書を使用し、プロのアドバイスを受けながらマンツーマンでレッスンを行っている。

### 3. 助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

スタートしてから約1年が経ち、以下のような成果が見えてきた。

外国人の日本語会話力は確実に上がってきており、初級会話テキストを終えた外国人が増加してきたので、2009年7月からは中級会話テキストの作成にも取り掛かっ



ている。また、スタートから半年程度までは不安視された外国人参加者数は、2009年4月ごろより、口コミなどで自然増加し、現在では会場スペースが狭くなるほどである。

また、現在参加している外国人は、イタリア・ハンガリー・インドネシア・フィリピン・オーストラリア・台湾・韓国・アルゼンチン・中国…など様々であるが、テ

ィータイムには唯一の共通言語である日本語を使って、参加者全員が親しく交流を深めており、大変なごやかな国際的交流の時間をもつことができている。

一方、当初の計画通りに行っていないこともある。

一番大きな問題となっているのは、一般の日本人や現在既にボランティアを実施している修了生などの日本人参加者が少ない点である。プロのレッスンの見学やアドバイスを受けながらのマンツーマンレッスンの実施などで、日本語の教え方を学んでもらって、きちんと教えられるボランティアを育てていくことがサロンの大きな柱の一つであるが、会場費・運営費の一部として負担していただいている参加費（1000円）が意欲を鈍らせるのか、日本人参加者の数が足りず、また運営資金も現在のところほとんどを助成金に頼らざるを得ない状況となっている。

#### 4. 助成金の活用状況

助成金 100 万円は、以下の費用に充てさせていただいた。

- ◆交流サロン会場費：御影にあるギャラリー&サロン「abiesfirma」を会場として借りている。オーナーのご好意により廉価で使用させてもらっている。
- ◆日本語プロ講師への講師料と交通費
- ◆コーディネーターへの謝金と交通費：交流サロンの担当責任者としてコーディネーターが準備から実施までを統括している。
- ◆教材教具の購入費用：交流サロンに必要なホワイトボードや事務用品などの購入。
- ◆チラシ・案内・ホームページ等の作成費
- ◆日本語教育関連参考図書購入費
- ◆企画会議等の会議費と交通費：サロンを立ち上げまでの企画会議、スタート後の関係者による交流サロン推進会議の実施。
- ◆その他：助成金申請書作成のときにアドバイスしていただいた中間支援組織への謝礼金や、電話代等の通信費にも助成金を使わせていただいた。

#### 5. 今後の事業計画

サロンは他に類似した事例がなく、文字通りのチャレンジ事業であったので、手探り状態の1年の実施期間を経てようやくその効果や問題点などが見えてきたところである。今後もさらに発展的に継続していきたいと考えているが、そのためには①外国人参加者の参加費の有料化 ②日本人参加者の参加システム作り ③しっかり教えられるようになった日本人に対してのインストラクター認定制度の確立 ④インストラクターの活躍の場の提供 など、今後は、財政面での自立と日本人参加者が参加しやすいシステム作りに力を入れていきたいと思っている。

**団体名：特定非営利活動法人 実用日本語教育推進協会（通称 THANK' s）**

**代表者：高畑 笙子**

**所在地：〒650-0003 神戸市中央区山本通3丁目19番8号**

**海外移住と文化の交流センター3F 活動支援室2**

**連絡先：TEL: 078-221-6530 FAX: 078-221-6531**

**E-mail: mail@npo-thanks.jp**

**http://www.npo-thanks.jp**

## 兵庫県発！地域限定の子育てSNS

特定非営利活動法人 フルーツバスケット

### 1 団体概要

当団体（フルーツバスケット）は、個々の家庭ごとのニーズに合った一時保育サービスや行政等からの託児委託業務を実施し、子育て中の親のリフレッシュの場を提供している。また、子育て中の親の心のケアも重視し、今後は、同様の悩みを抱える子育て中の親のニーズにより広く応えるよう、企業や病院、行政などと協働で保育サービスの提供を考えている。

わたしたちの活動目的は、『子育ての喜びを実感できる環境づくり』です。

●子どもたちが楽しく過ごせる環境づくり

お預かり保育、親子活動等で、個に応じた関わりにより子どもたちを見守ります。

●保護者の心のケアの環境づくり

育児相談が出来る環境を充実させ育児不安の軽減を図ります。

●新たな雇用の環境づくり

チームジョブによる新たな雇用システムにチャレンジしています。

### 2 助成事業の概要

兵庫県発！地域限定の子育てSNSを2009年3月に開設（※）。県内の子育てママ同士がコミュニケーションを活性化させ、情報を共有し、リフレッシュできる場の提供、および各地域の子育て支援グループやサークルとも連携し、横のつながりを意識しながら重層的な支援体制の構築を目的とした。

当事業を実施するにあたり、

◎当事業の開始すぐに兵庫県しごと支援課とワークライフバランスなどについて積極的に意見交換した。

◎東京在住のキャリアアドバイザー柴山氏には、先行事例視察において、さまざまな団体を紹介してもらい、多くの知見を得ることができた。

子育てSNSを開始してからまだそれほど時間は経っていない。しかし、すでに子育てママ同士の交流が深くなり、一緒に出掛けたり、相談をしたりするなど発展の芽は出ている。



### 3 助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

#### ■将来設計を見直す機会

「子育てとの両立を考えるワークショップ」を開催し、多くの子育てママが参加した。日頃の生活を見直し、空き時間の有効活用、自分のための時間の利用方法等などについてグループで意見を出し合った。その結果、自分の将来設計を見つめ直す機会が持つことができた。

#### ■チームジョブという選択肢

上記ワークショップの参加者の中で「子育てと両立しながら働きたい」という思いの人が一定数いた。そこでフルーツバスケットで仕事をチームジョブ（兵庫県モデルケース）という形で提供する場を作り出すことができた。

## ■メディア

上記の活動が認められ、NHK や日経新聞・雑誌などの取材を受けた。

## ■SNS の成果

正式なスタートから1ヶ月もかからずに100名近い登録を得ることができた。

### ① ワークライフバランスやチームジョブと子育て SNS の連携

当事業においてワークライフバランスやチームジョブは子育て SNS のニーズを把握するために本来実施したものである。しかし、より大きな成果を上げたのはワークライフバランスであった。そのため、ワークライフバランスと子育て SNS をどのように連携させるのが重要である。

### ② 子育て SNS の活性化

上記で書いたように1ヶ月も経たず100名近い登録を得ることができたが、当初の目標には及ばなかった。これは一概にスケジュールが押したことに起因する。しかし、現時点においても開始当初と同じくらいのスピードで多くの方が登録している。そのため、今後は新規の登録者数も維持しながら、子育て SNS 内のコミュニティや交流の活性化を図っていきたいと考えている。

## ■メディアや行政などとのネットワークの広がり

以前から活動地域の明石市とはさまざまな面で協働してきたが、ほかの団体とのネットワークは十分とは言えなかった。当事業をきっかけにメディアや行政と交流し話し合う機会を多く持つことができ、今後事業を展開する上で大きなアドバンテージとなりうる。

## ■スタッフのマネジメント能力の向上

今までフルーツバスケットは新しい事業の展開から事務まで多岐に渡る業務の多くを代表ひとりで行っていた。ほかのスタッフはよくも悪くも子育ての現場をよくすることに力を注いでおり、組織をマネジメントするという視点に欠けていた。しかし、上記ワークショップを実施するにあたり、その業務を各スタッフに分担してもらうことにより、それぞれが組織に対する責任を持つことができるようになった。

## 4 助成金の活用状況

- ・ワークショップの開催費用
- ・先行事例の視察費用
- ・SNS のWEB のデザイン料

## 5 今後の事業計画

甲南大学に協力を要請し、託児保育についてのニーズ調査を企業と子育て中の親に向けてアンケート形式で行い事業所内保育施設の設置運営に関する調査報告書を作成する。企業内託児や駅型保育所設置運営に繋がるように基礎固めに努める。



(※) 兵庫県発！地域限定の子育て SNS (URL <http://fruits-basket.org>)

## 野球を通じての青少年育成・地域交流活動

NPO 法人 ベースボールスピリッツ

### 1. 団体概要

平成11年、中学生の硬式野球チームである「ドリームファイターズ(宝塚ボーイズ)」を設立。野球を通じて、子供たちの体力向上や技術向上のみを目的とするのではなく、健全な精神を育て生きていくうえで必要な人間形成の場のひとつであるという精神のもと活動をしてきた。野球というスポーツを介して幅広い世代や地域の人たちが交流を深めることにより、野球の振興と世代交流、地域への貢献を目的とし「NPO法人ベースボールスピリッツ」を設立。全国に活動の場を広げて、小学生への野球指導や講演活動を行っている。

### 2. 助成事業の概要

野球はチームスポーツであり、一人ではできない。仲間と支え合い、切磋琢磨し努力する事が子供たちにとって精神修練、協調精神確立の場となる。そして子供たちが野球を続けて行くには家族はもちろん地域の方々、応援して下さるたくさんの方々、指導者やチームメイトの支えなくてはならない。日々野球に打ち込むなかで、人への思いやりの心、感謝の心を養うことにも重点を置いて活動してきた。

#### 「野球をもっと好きになって欲しい」・・・中学生が小学生に教える野球教室

野球をもっともっと好きになって欲しい・・・そういう純粋な思いから宝塚ボーイズが合宿でお世話になっている各地で、地元少年野球チームの小学生に野球教室を開催した。野球教室と言えば憧れのプロ野球選手から教わるのはよくある事であるが、中学生が小学生を指導する野球教室の取り組みは全国でも他に例をみないと思う。小学生にとって中学生の「お兄ちゃん」が一番身近な目標であると考えた。選手たちはどうやったら教えることが小学生に伝えられるのか、どうやったら野球を本当に好きになってもらえるのか、短い時間の中で苦悩を重ね考えて行動していた。



「教えること、教えられること、気がつくこと、気づかされること」

宝塚の選手の取り組みの成果は小学生のキラキラ輝いた瞳が物語っていた。「またお兄ちゃんと野球がしたい。早くお兄ちゃんたちみたいになりたい・・・。」

#### 「憧れのスカイマークで全力プレー」・・・第一回ベースボールスピリッツ杯開催

合宿先の福岡・高知・島根・岡山と地元宝塚・伊丹・川西の選抜チームを招いて、オリックスバファローズ本拠地のスカイマークスタジアムで、小学生の野球大会を開催した。大会前日のレセプションには宝塚ボーイズ出身の東北楽天イーグルス田中将大投手も応援にかけつけていただき、子供たちとの交流を深めてくれた。また、選手・指導者を含め引率のご父兄も参加し怪我を防止する勉強会を開催。講師の先生や甲子園球児もお世話になる理学療法士の先生のお話にも熱心に耳を傾け、ストレッチ等の体験もしていただいた。

スカイマークでの試合は、各地の選抜チームとあってどの試合も白熱した好ゲームとなり、寒いグラウンドに選手たちの熱気と大きな声がこだまっていた。プロの本拠地のフィールドに立てたことは、野球少年にとっては一生の貴重な思い出となったことであろう。



憧れのスカイマークで・・・



やったぞ～！

### 3. 助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

#### ●アピールポイント

- ・中学生が小学生に教えるという、全国でも例がない新しい形の野球教室。小学生にとって、一番近い目標である中学生が実施することにより、より現実に近いこと。
- ・活動の拠点を、兵庫以外の県外にも広げていること。
- ・合宿先の代表チームを兵庫に集め、プロの本拠地で試合を体験させること。
- ・大会のお手伝いを宝塚の選手が積極的に務めること。

#### ●良かったこと

- ・野球教室は、小学生が本当に喜んでくれたこと。また宝塚の選手にとっても、人に伝えることの難しさを体験でき、改めて家族や恩師の苦労や偉大さもわかったこと。
- ・大会ではそれぞれ一生の思い出づくりができたことと感謝の言葉をたくさん頂戴し、地元宝塚にも宿泊等で貢献できたこと。
- ・宝塚の選手が試合の審判をしたり、ベンチでアドバイスを送ったり、裏方として大会を支え成功させたこと。OBのお父さんまでもが、球審を務め協力してくれたこと。

#### ●苦労したこと

- ・初めての大会でレセプションも試合当日も、準備や進行が苦労した。

### 4. 助成金の活用状況

#### ●活動をする合宿先への選手移動の交通費

#### ●活動をする合宿先での選手の滞在費

### 5. 今後の事業計画

#### (1)専用グラウンドの整備

- ・部員が増え手狭まになってきた現在のグラウンドから、土・日・祝日利用する専用グラウンドを整備し、更に技術・精神の向上を目指す。
- ・グラウンドに困っている様々なチームにグラウンドを貸し出す事も考え、お互いに向上していく。
- ・専用グラウンドで様々な大会を催し、支援して下さる方々のアピール活動をしていく。

#### (2)野球を通じての社会貢献

- ・「中学生が小学生に教える野球教室」の拡大。地元の小学生に対しても機会を増やしていく。
- ・ベースボールスピリッツ杯の規模を拡大し、多くの子供たちに憧れの舞台でのプレーを実現させる。
- ・野球の技術だけでなく、人間形成のできる指導者を育成していく。
- ・高齢者や障害者、学生のスポーツ大会を催し、宝塚の選手、スタッフが大会を支えていく。

団体名	NPO法人 ベースボールスピリッツ
代表者	理事長 奥村 幸治
	〒665-0875 兵庫県宝塚市中筋山手7丁目1番2-104
	TEL/FAX 0797-88-2742



## 鳥取市中心市街地の取組み等で学んだ地域づくりマネジメント

特定非営利活動法人 但馬未来工房 理事 河越 忠志

### 1 受け入れ団体の名称・概要等

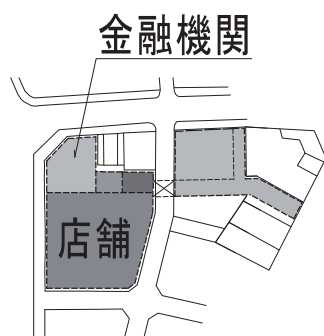
東京、仙台等で30年余り都市計画、地域計画の仕事に従事し、多くの市街地再開発を始めとする実務・実践経験を積んでこられ、現在は鳥取市を拠点に中国地方5県全域に亘る様々な地域づくり・地域活性化分野で都市計画分野の専門家（技術士）として、また、独立行政法人中小企業基盤整備機構の中心市街地サポートマネージャーの立場でも活躍しておられる山崎洋二氏が代表を務める都市創造研究所である。

### 2 インターン活動の概要

山崎洋二氏に、仙台での様々な事例から地域活性化手法の実践的指導を受け、多様な地域人をまとめ、合意形成に導くマネジメント手法を学んだ。特に同氏が手掛けた宮城県仙台市青葉区一番町四丁目9番街区での再開発計画の展開に関する失敗経験について学び、その失敗原因の検討を行った。また、現在、同氏がアドバイザーとして加わっている鳥取市中心市街地活性化協議会の分科会やタウンマネジメント会議にもオブザーバー参加させていただき、本当の実践を目の当たりにすることができた。マネジメント手法の伝達資料は未完成ながら、私が担当者として同時期に進めることとなっていた兵庫県建築士会浜坂支部地域活性化委員会の「但馬地域づくり活動応援事業」としての「持続できる美方郡の将来像を探る」（報告書）の作成に当り、同氏から調査研究及び報告書手法の指導を受けた。更に NPO 法人但馬未来工房のメンバーにも事業の一つとして検討会に参加してもらい、私がその取りまとめを行った。

### 3 インターン成果の報告

鳥取市中心市街地活性化協議会のS街区開発検討委員会では、当該街区の地権者の一部も委員に加わり、国土交通省及び経済産業省各管轄の様々な助成制度を活用することを前提とした一街区を再開発することの可能性を探り検討することに参加経験する

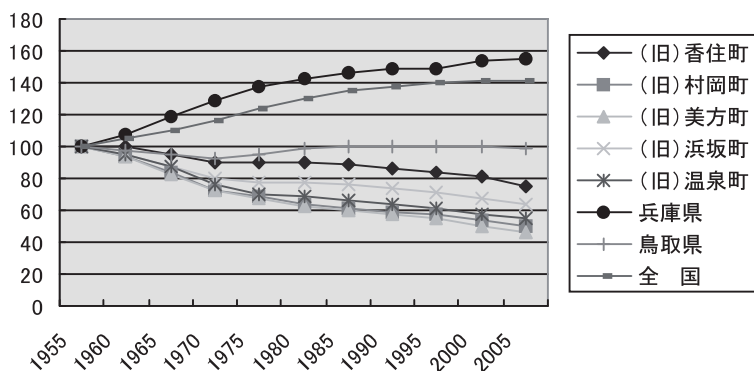


ことができた。実際には、鳥取市中心市街地活性化基本計画に沿った街区の周辺地域の活性化を含めた位置づけを維持しつつ、地権者の再開発事業への参画メリットを追求するため、街区の法的条件、助成制度活用ための条件、地権者の意向・意識条件、事業試算等様々なシミュレーションを経験することができた。地権者は宅建業者、食品販売店、文具店、衣料品店、神社、印刷会社（空店舗）、露天駐車場経営者、一般住宅居住者等で同じ方向に進むことの難しさも委員会の協議で実感した。検討委員会は、期間が設定されていた

ため、結果として検討内容の報告書をまとめるところまでで、一応の終了となったが、実際の再開発事業をマネジメントする場合、再開発への意欲と影響力を持った当事者を設定できるかが実施への鍵となることを痛感した。

兵庫県建築士会浜坂支部地域活性化委員会と NPO 法人但馬未来工房が協働で実施した「持続できる美方郡の将来像を探る」事業では、美方郡の50年間の職業別人口推移調査によって、私たちの美方郡がどう変化していくかを探り、地域として持続できる方策づくりを検討することを目的に実施した。美方郡は兵庫県の北西端に位置し、但馬地域の中でも交通網の点から最も不利な立地条件であると言える。調査の結果、昭和30年から50年間で日本の人口が40%増加した中で、美方郡の人口は40%減った。その間、旧町により差はあるものの基本的に職業人口分布も第1次産業から第2次産業・第3次産業へと重心が移動した。その傾向は、日本全体と一致しており、日本の人口が減少期に突入した中で、今後の過疎化の加速化は単純には避けられないものと思われる。そんな状況下で50年後に持続できる地域であるために今から準備しておかなければならないことを痛感した。今回のインターン研修を経験できたことで持続できるとは何か、どんな条件が必要かを確認することが、その準備のためには重要であり、端的に言えば、①生活する上で最低限の安全が確保されている地域であること、②最低限の生活ができる収入或いは収穫が得られる地域であること、少し発展的に考えれば、地域全体として教育分野を始めとする地域外必要消費に相当する以上の地域外貨を得られる産業があることも地域としての必要条件になることが理解できた。そして、これらの必要条件を満たし、少しでも際限のない十分条件に近づけるためには、地域が一丸となって無駄な消費をなくすことが必要であり、例えば、地域内農業生産の分担集約化、地域内消費システムの確立、また、兼業農家の農業機器共同保有制度の確立も有効で、所有者が留守となった農地やその他の不動産の地域保有・活用制度創設にも地域としての取組みが必要である。第2次産業、第3次産業分野でも、ある種の半官半民間企業等の起業により設備投資の効率化と人材育成・確保の地域内

1955年を基準とした人口増減の推移：グラフ(1)



調整が可能なシステムの確立が望まれる。今こそ地域が一つになって、危機感を持ちながら、地域維持のために考え、取り組む必要があることが実感できた。更に、単なる経済システムだけでなく地域人として地域の歴史や文化を通して地域を愛せる感性を育むための様々な教育環境の整備も必要不可欠であろうと思っている。

#### 4 インターン成果の今後の活用方法等

今まで但馬地域には地域活性化のマネージャーを務める人材が認められていないと言え、地域づくりの方策づくりを京阪神の但馬と関係が薄いコンサルタントの人たちに頼ってきた。今回の私の研修は NPO 法人として、その分野の一面を切り崩し、但馬人が但馬を真剣に考え、行動しなければならないことをアピールするための基礎づくりの切っ掛けになったものと考えている。今回は当 NPO 法人だけでなく、兵庫県建築士会浜坂支部会員に対しても地域づくりをその地域を放棄しない立場の人間（地域住民）が考え、行動すべきものであることを個人・団体に関わらず、常に意識している必要があることを伝達できたと思う。今後、今回協働作成した報告書を公表すると共に美方郡の地域づくりの具体的方策づくりを兵庫県建築士会浜坂支部会員と共に進め、提言書として発表していきたい。また、他の地域についても他団体との協働により、地域づくりの具体的方策づくりに向けた活動を地道に継続発展させたいと考えている。

## 学校給食への地元産農産物の供給と食育の推進

特定非営利活動法人 いちじま丹波太郎

### 【団体の概要】

旧市島町のまちおこしのために立ち上げた NPO で、地域の産業（農業とその周辺）の活性化と持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

具体的な事業は下記のとおり

- ①地域の製品の販売や利用の機会を作り、物流を促進する事業  
（直売所の運営、学校給食への地元農産物の供給、都市部での農産物の移動販売、米らあめん・米うどんの食堂の運営、他）
- ②有機農業を普及啓発し、推進する事業  
（農業資材・技術の情報集発信、新規就農者の支援、食農教育の推進、他）
- ③生産者と消費者の交流事業  
（農業体験企画の実施、宿泊施設の管理運営、観光協会の補助）
- ④農産物の検査事業（米穀の検査業務）

### 【助成事業の概要】

協働の相手方：丹波市農林振興課

#### （1）学校給食での地元産農産物の自給率を上げるための体制づくり

- ・先進事例調査（愛媛県今治市、山形県鶴岡市、秋田県鹿角市、福島県喜多方市）
- ・柏原・氷上地域の生産者組織の立ち上げ。
- ・「丹波市学校給食用農産物生産者組織連絡協議会」の立ち上げ。

（この協議会が供給側の窓口となり、市内統一した条件で自給率を上げるための方策を教育委員会と協議できるようになった。）

#### （2）義務教育での食育の推進

- ・先進事例調査（福島県喜多方市、JA 新ふくしま、NPO 法人 CS まちデザイン）
- ・食育講演会の実施（地域の教諭対象）
- ・食育の授業を実施するためのデータ収集

小中学校での食育（農業・食料・環境の観点からの食農教育）授業を提案できるように、学習指導要領の研究と食・農に関する資料を収集、それらを利用した授業内容を検討。

- ・小中学校（食育推進校）での授業の実施

○前山小学校5年（1クラス3時間）

- ①食料の自給と食生活について
- ②環境問題と食生活について
- ③食の安全と有機農業について



○市島中学校2年生 (3クラス各1時間)

食料自給率、食品汚染、環境問題などの面から食生活を正す必要性を説明。また、その延長として“もうひとつの生き方”＝農業を選ぶ若者が増えていること、市島には有機農業を目指す新規就農者が多いことを紹介した。

**【助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと】**

- (1) 柏原・氷上学校給食センターでの地元農産物の供給体制を作り上げたことによって、市内各地域ごとでの地産地消が進む基盤は出来た。しかし、給食センターごとでその内容はバラバラであったため、教育委員会は購入方法を統一し、地元農産物も業者の入札価格に合わせることに決め即実施した。この知らせが突然で一方向的であり、単価の下落につながるものであったため、生産者の不満が一举に高まった。このため、本事業で取り組もうとしていた“市内生産者組織のネットワーク化”が早急に求められる状況となり、スムーズに「丹波市学校給食用農産物生産者組織連絡協議会」を発足させることが出来た。そして、まず単価設定の方法から協議し始めている。
- (2) 食育に関しては、当初、既成のプログラムを小中学校に導入してもらうことも考えていたが、学校の現場にはそのような時間的余裕はなく、断念した。そして、それぞれの学校（担任教師）にあわせた内容で授業ができるように資料を集め、準備を進めた。おかげで農業・食料・水・食品の安全性・環境・人の食性・健康等様々な視点から食生活を見直すための授業が提案できるようになった。

**【助成金の使途】**

助成金は、主に先進地での学校給食センター（調理場）と生産農家との関係の調査や、食育推進のための調査・研究並びに授業実施のために活用した。

**【今後の事業計画】**

- (1) 当面は、単価設定の方法について「丹波市学校給食用農産物生産者組織連絡協議会」と丹波市教育委員会との協議を進め、生産者が納得し、生産の意欲が出て、結果的に学校給食の地域自給率が向上することを目指す。また、この協議会の活動として、給食を通じた食育や、より安全な農産物の供給のための活動を進めていく。さらに、学校給食用の供給量増が新規就農者の育成にもつながるようにしていきたい。
- (2) 学校教育での食育は、教育委員会が本気で取り組まない限り、担当教師の意識次第であるため、まずは小学校高学年と中学校の家庭科の先生に授業プランを提案し、要望のあった学校でそれぞれに合わせた内容の授業を実施し、地道に実績を積んでいくことにしている。

特定非営利活動法人 いちじま丹波太郎 代表 荒木 武夫

〒669-4321 丹波市市島町上垣 25-3

Tel/Fax : 0795 (80) 3750 E-mail : tanbataro@mx.nkansai.ne.jp

URL : <http://www5.nkansai.ne.jp/org/tanbataro/>

## デートDV防止出張授業開催事業

NPO 法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ

### 1、団体概要

1992年、女性と子どもの人権を守り、男女共同参画社会の実現をめざして活動を始める。阪神淡路大震災を契機に、女性と子どもへの暴力防止、特にDV被害者の支援活動に力を注いでいる。電話・面接相談から付き添い支援へ、そして2005年に女性と子どものための民間シェルター（緊急一時保護）を開設。被害者も加害者もつくりたくないための予防教育にも力を入れている。

### 2、助成事業の概要

兵庫県立男女共同参画センター、兵庫県教育委員会人権教育課との協働事業。

①6月と12月に「デートDV防止に向けて」講演会の開催、男女共同参画センターとの共催。教員、保護者など計110名が参加。モデル授業を実施し、終了後には現場で生徒の対応に苦慮しておられる先生方から活発な質疑応答が行われた。

②教育委員会人権教育課の主催で、7月に、教育研修所で200の県立高校の人権担当の先生を対象に「デートDV防止研修」を実施。先生方に寸劇を演じて頂いたが、こんなおもしろい人権研修は初めてと言われ2学期以降の出張授業の実施につながった。

③県内の48の県立高校へ出向いて、14000人の生徒を対象にデートDV防止授業を実施した。体育館で学年単位（300人～500人程度）で60分～90分程度行う。

まず最初、生徒にデートDV自己チェック表に記入してもらい→生徒自身による、寸劇を行う。前半に3組のペアにデートDVのシナリオに沿って演じてもらう。後半で同じペアに相互を尊重するシナリオで演じてもらう。生徒が演ずることで、身近な問題だと感じることができる。→パワーポイントを使ってわかりやすくデートDVについて説明する→終了後にアンケートをとる。

### 3、助成事業のアピールポイント

DV家庭で育つことは全ての子どもにとって心理的虐待である。最近のアメリカの報告によれば、膨大な臨床の結果から加害者には何をやっても効果がないとのこと。被害を受けた女性や子どもたちの心身の回復にかかる時間や生活再建の困難、それに伴う費用を考えるなら、早期防止教育が重要であり、費用対効果も非常に大きい。授業を受けて、初めてデートDVをされている、していることに気づいたという生徒も少なくない。対等でお互いを尊重する関係作りについて学んだ彼らが、将来、暴力のない家庭や地域社会をつくる大きな力となる。



## 良かったこと

①学校現場に民間が入ることは非常にむづかしいが、教育委員会との協働事業であることが、大きなバックアップとなって、この事業を遂行することが可能になった。

② プログラムを作成に関して、CAP、母子相談員、性教育の専門家、助産師、DVシェルタースタッフ、元議員など多様な職種の人が集まり、さまざまな視点からの意見がでたので、非常に良い質の高いプログラムができたと自負している。

③DV 被害者支援は、支援者も無力感に陥ることも少なくないが、受講した生徒から「一生役立つ授業を受けることができた」「自分は決して傍観者にならない」などの感想は明日への希望やパワーになる。

④ 講座のPPTに「DV 家庭で育った子どもへ」の項目があり「暴力はあなたのせいではない」「あなたが暴力をふるわないと決心すれば、よい家庭を築くことはできる」と伝えているが、「自分の家はDV。だから将来を悲観していたけれど、授業で自分は元気もらった。ありがとう」という感想があった。誰にも言えず苦しんでいる子どもがこの授業で元気を取り戻せることが嬉しい。

## 苦労したこと

①学年単位で実施したいが、学校からは全学年でやって欲しいと言われることも多く、多すぎて生徒は集中しにくいし、後ろはスクリーンがぼやけて見えにくいなどの問題もある。どこの学校でもデートDVはあるが、進学校ほど取り組みに消極的である。

②アンケートの回収方法と集計が膨大な作業だった。途中から、統計部分は学校側にマークシートでの協力をお願いした。アンケートはもうやめてもいいのだが、自由記述は生徒にとって自分をふりかえる作業にもなるので、講師が回収して持ち帰り、入力作業をしているが、やはり生徒数が多いので負担が大きい。今後の課題である。

③学校から問い合わせや打ち合わせの作業が非常に多く、予定した週1日のアルバイトでは無理で、現在は週4日専従スタッフとしてデートDV 関連の事務をしてもらっている。財政難で、人件費が不足している。

## 4、助成金の活用状況（使途）

講師謝金、事務局スタッフ人件費として合計約74万円、間接経費（通信運搬費、事務用品費、図書費、会議費など）として約29万円を使用した。

## 5、今後の事業計画

①2009年度は、31の中学・高校で実施を予定している。兵庫県と京都、大阪にも広がっている。中学生の授業の反応や感想も高校生より素直で受け入れやすいようである。

② 授業の希望が多いので、トレーナーとして学校に出向いて授業の出来る人材を育成していく必要性を感じている。

③ DV 家庭で育つことは、全ての子どもにとって心理的虐待である。DV から逃れた母子の生活再建の困難さ、社会的なコストの大きさを考えるなら、兵庫県内の全ての中・高生がデートDV 防止教育を受けることができるように働きかけていきたい。

ただ、事業費が助成金だのみなので、不安定である。行政の予算化を切に願う。

正井礼子 神戸市須磨区須磨浦通4-6-5 401号 連絡先 078-734-1308

HP <http://homepagel.nifty.com/womens-net-kobe/>

## 淡河町「ゾーン・バス」の運行を目指して！

特定非営利活動法人 上野丘さつき家族会

- 1、団体概要 所在地：神戸市北区淡河町  
代表者：相良 幸信  
設立：2005年  
電話：078-958-0252 FAX：078-958-0251  
会員数：正会員 12名 賛助会員 25名  
日常活動内容：  
・成年後見制度による法人後見支援活動  
・福祉施設の運営支援サービス評価活動  
・障害者 高齢者の事務代行、自立支援、就労支援、各種相談事業  
・過疎地有償運送事業（淡河町「ゾーン・バス」の運行）

### 2、助成事業の概要・協働の相手方

地域住民の身近な交通手段として淡河町「ゾーン・バス」の運行を開始すべく企画提案し 平成18年度（初年度助成）・平成19年度（二年次助成）において 神戸市主催による「地域公共交通会議」の合意を得た。

平成20年度（三年次助成）においては 運行開始・体制についての可否を判断する「運営協議会」（神戸市主催）の合意を得るべく協働の相手方である 神戸市企画調整局・北区まちづくり推進課と事前交渉に奔走した。又 兵庫県下初という事もあって 運営協議会の設置基準から作成し 運行経路・時間・料金・サービス基準・テスト運行による乗客数の把握と事前告知等々 協働先の神戸市担当セクション共々知恵を出し 汗を出しました。

加えて 町内諸団体への説明や 運行についての研修会参加等 専門家の指導を仰ぎながら活動が続け 兵庫県初の「過疎地有償運送」の登録を受けて やっと“出発式典”（運行開始）に漕ぎ着けました。

### 3、助成事業のアピールポイント

- ・良かったこと
  - ① 運行開始まで行政他多くの人（賛成・反対は別にして）に会えたこと。
  - ② 降車される時「本当に有難うね！」と感謝されたとき うれしく思う。
  - ③ 「ミニデイや ゾーンバス待つ 花の下」の俳句を読んで下さった事。
- ・苦労したこと
  - ① 立場を超えて 議論することの難しさを 改めて痛感しました。
  - ② 思いもせぬ中傷や 噂が先行し 活動が中座しそうになった事。

#### 出発式典写真



#### 4、助成金の活用状況（使途）

運行に必要な諸経費（看板・停留地表示・料金箱等）	200千円
テスト運行の為の費用	190
運転者研	